

健幸タイム



無関心の智慧

仏教には「般若の智慧」といつのがあるそうです。般若「はもともと智慧」という意味なので「智慧の中の智慧」という感じかもしれません。さて、一般的な知恵とは少し違う「般若の智慧」とは？

「般若の智慧」第二の智慧・無関心の智慧

作家のひろさちやさんは『損する生き方』のススメという著書のなかで「いまの人たちは他人に関心をもちすぎています」と述べて、次のような警え話を紹介しています。

「大きな池で百人の人が溺れていたとします。そのとき阿弥陀さまは誰から先に救助するか。善人を優先するでしょうか。『NO』です。じゃあ、悪人が先か。これも『NO』なぜかー。だって、考えてもみてください。百人もの人間が溺れているんです。その中で誰がいちばんの善人で、誰が二番目か。そんな査定をしていたら、その間に大勢の人が溺れ死んでしまいます。だから、阿弥陀さまはいちばん自分の近くににいる人から順番に救っていかれるに違いない。その人が善人か悪人か、金持ちか貧乏人か、美人かそうでないか、頭がいいか悪いか、体力があるかないか……そんなことはいっさい関係なく救っていくはすです。(中略)いいかえれば、そういうことには無関心のまま、溺れた人を救っていくのです」

無関心になると、ラクになる

無関心になると、目のまえのことについて

ジャッジ(判断)しなくなります。

人を裁く。あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、

自分の量る秤で量りとえられる

「マタイによる福音書」章1〜2節

僕が主催しているお話会では、ここ数年、質問がほとんどありません。

「どっちでもいいんじゃないでしょうか」という答えしか返ってこないということが、どうやら浸透しているようです(笑)。

なんでも、ジャッジ(判断)しなければ、自分自身がラクになります。

「思がしやすい＝生きやすい」という語源説があるように、自然の摂理にかなっているときは、ラクだなあと感じるもの。

無関心＝ジャッジしない＝ラクということ「無関心の智慧」もまた自然の摂理にかなっているのだと思います。

謙虚に向き合うと、無関心になる

ひろさちやさんは同著で次のようにも述べています。

一例を引けば、キリスト教の擁護論であるパスカルの『パンセ』には、人間がいかに不完全な存在であるかという警えがいっぱい出てきます。人間は広大無辺の宇宙を想像できるか。反対に、ダニの体、その中の脚、脚の中の血管、血管のうちの血液、血液の中のしすく、その中の蒸気……を思い描くことができるか。あまりに大きな音は聞こえないし、あまりにも多くの光はわれ

われの目をくらませる。極度の熱さ・冷たさは知覚されない。

いかなる想念もそれに近づぐことはない。(中略)人間にとっては、事物の窮極もまたその根源も、はかり知れぬ秘密のうちにどうしようもなく匿されているのである。(中略)されば我々是我々の限界を知ろう(断章七二)

「人間の不釣合」と呼ばれるこの一節からも、僕たちが、宇宙のような広大な無限も、極小の世界のことも、じつはまったくわかっていないということがわかります。

わかっていないのであれば、そもそもジャッジすることもありません。

無関心の智慧は「わかっていないということとがわかる」ための智慧なのかもしれませんね。

参考文献

ひろさちや・石井裕之著『損する生き方』のススメ(フォレスト出版)

鳴海周平プロフィール



1971年北海道生まれ。心身の波動を高める製品の開発・普及をおこなう(株)エヌ・ピュア代表。健幸エッセイスト、ヒーラーとしても、ラジオ番組や講演、ブログ、著作などを通じて「こころとからだの健幸情報」を発信している。著書に『医者いらずになる1分間健康法』(帯津良一氏との共著)『「小食・不食・快食」の時代へ』(はせくらみゆき氏との共著)(ここまでワニ・プラス刊)『1分間ヒーリング』(徳間書店刊)などがある。最新刊は『「運」のミカタ』(ワニ・プラス)。



LINE
友達登録
こちらから

アミーバブログ

<https://ameblo.jp/npure/>

エヌ・ピュア公式サイト

<https://npure.co.jp>